

松山議員

記念事業について

問①来年は勝山市制施行60周年の大きな節目の年になるが、記念事業を行う必要があるのではないか。

答①今年、えちぜん鉄道は全線開通10周年を迎える。全線開通10周年イベントを行うことが必要ではないか。

答②今年、えちぜん鉄道は全線開通10周年を迎える。全線開通10周年イベントを行うことが必要ではないか。

答①市制施行60周年を全市民で祝福するため、お金をかけた大がかりな事業ではなく、60年の節目にふさわしい、アイデアと工夫が詰まった、楽しく、感動的で、思い出に残る小さくてもキラリと光る事業を検討していく。

答②えちぜん鉄道は、沿線市町住民の熱意により第3セクターの鉄道として復活した。その経緯から、えちぜん鉄道、行政、沿線サポート団体により10周年記念事業の内容を協議している。なお勝山市内で開催される記念事業については、市制60周年記念事業のプレイベントとして位置付けできないか検討している。

環境教育について

問①福井大学との包括的連携協定の中で、「勝山市内幼小中学校

その他の質問
・勝山市の防災関係について
・BCP業務継続計画の策定について
・自主防災組織連絡協議会の創設について

における質の高いESDプログラムの開発と実践に係る共同研究」はどのように取り組んでいくのか。

答②提案していた「国際交流」や「持続発展教育」ESDの学校現場への普及を図るためのユネスコスクールへの参加についてはどのように取り組んでいるのか。

答①勝山の生物や自然環境を教材として扱い、「探究的な学習」を実践できるプログラムを前園環境保全推進コーディネーターを中心として実践していく。

答②ユネスコスクールの加盟申請書は5月13日付けで福井県教育委員会へ提出し、現在はパリのユネスコ本部へ提出されている。



えちぜん鉄道全線開通 (平成15年10月)

乾議員

地元商店の活路について

問訪れる多くの観光客に対して、市内で昼食提供のサービスができるよう取り組んでいる最中、誠に残念ながら、今春、市街地のそば屋さんが閉店し、他にも閉店される話を耳にする。県の更なる恐竜博物館への観光誘客事業が進む中、コンビニ等の乱立が目立つ。何とか地元商店の活路を開かねばならないが、どのように考えるのか。

答地元事業者が活路を見出し、順調な経営を行っていくためには、勝山でしか手に入らないという付加価値のある、魅力ある商品の開発と、売上向上に向けた工夫を継続していくことが必要。今後とも関係機関等との連携を強化し、情報を共有化するなかで、事業者の売上向上に結び付くような支援策を図る。

認知症対策について

問厚生労働省研究班による昨年時点での調査によると、65歳以上の内、認知症の人、及び認知症になる可能性がある軽度認知障害の人(予備軍)を含めて4人に1人が認知症との驚くべき結果が出てい

その他の質問
・上志比・永平寺間バイパス道路整備状況について
・社会人の学び直し支援について
・小型家電の回収について

る。当市の実態は予備軍も含めどのような数値か。早期発見がまず大事。今後、65歳以上の高齢者の健康診断時に、認知症検査の項目を入れてはどうか。

答勝山市では平成25年4月1日現在、要介護認定者の70・3%が認知症高齢者で65歳以上の高齢者に占める割合は13・7%となっており、増えている状況にある。

平成23年度より県では早期診断を目的に定年齢認知症検診をモデル的に実施し体制づくりを進めている。勝山市でも65歳以上の高齢者を対象に健康自立度調査を実施し、認知機能の低下している人を把握しており、認知症の早期診断・早期対応ができる体制づくりに取り組んでいく。



「左義長」時の本町通り